

長尾さんに続き、みんなの力で喜友名正さんの労災認定を勝ち取ろう

「原発被曝労働者 喜友名正さんの労災認定を支援する会」

への参加呼びかけ

全国の皆様へ

ウラン採掘、原発・再処理等は過酷な被曝労働、多数の被曝労働者を必要としその犠牲の上に成り立っています。日本の原発被曝労働者の労災補償例は極めて少なく、被害は放置されたままです。

喜友名正さんは、泊、伊方、美浜、高浜、大飯、敦賀、玄海などの原発、六ヶ所再処理施設などの定期検査の現場で、非破壊検査技術者として、1997年9月から2004年1月までの6年4ヶ月間で99.76ミリシーベルト被曝しました。体調悪化による退職後、血液のガン的一种である悪性リンパ腫に襲われ、2005年3月に53歳の若さで亡くなりました。

喜友名さんは、当時の日本で被曝線量の最も高い労働者100人の内に入るという、極めて過酷な被曝労働によって命を奪われました。しかし、遺族による労災申請は、悪性リンパ腫は例にないとして昨年9月に却下されました。現在不服申し立てによる審査中ですが、今年6月、運動の力によって、「りん伺（資料を添えて本省に判断を求めること）に戻し、再検討する」ことを厚生労働省に認めさせることが出来ました。淀川労基署が下した不支給決定を取り消させ、労災認定させるための、大きな一歩を踏み出すことができました。

過酷な原発被曝労働で命を奪われた喜友名さんの労災をなんとしても認めさせなければなりません。

これまで氷山の一角として労災認定されたのは2004年の長尾さんの多発性骨髄腫を除けば、いずれも白血病のみです。喜友名さんの悪性リンパ腫の労災認定を勝ち取ることは、多発性骨髄腫の労災認定と併せて、日本の狭い労災認定の窓口をこじ開け、全国の原発被曝労働者の補償を前進させます。

長尾労災認定を求める運動が、全国の反原発団体や、市民団体、労組、原水禁、などの力を結集して勝利した経験を大事にして、喜友名さんの労災認定を求める運動を広めていく必要があります。りん伺を受けて開かれる厚生労働省の検討会に向けて、全国の支援する人々の意志を結集するための署名や対政府交渉が大きな意義を持っています。

そのために、「原発被曝労働者喜友名さんの労災認定を支援する会」を結成しました。「私の後に続いてほしい」という長尾さんの思いを引き継ぎ、「みんなの力で喜友名さんの労災認定を勝ち取ろう」を合い言葉に、全国の多くの方々が「支援する会」に結集され、喜友名さんの労災勝利への支援を行っていただくようお願いします。

原発被曝労働者喜友名正さんの労災認定を支援する会 発足世話人

渡辺美紀子（原子力資料情報室）

建部暹（ヒバク反対キャンペーン）

連絡先	〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2階B 原子力資料情報室 Tel 03-3357-3800 Fax 03-3357-3801 担当者 渡辺美紀子 E-mail cnic@nifty.com	〒591-8691 堺市堺区金岡郵便局私書箱17号 ヒバク反対キャンペーン E-mail hibaku-hantai@nyc.odn.ne.jp 担当者 建部暹 〒666-0115 川西市向陽台1-2-15 Tel & Fax 072-792-4628
-----	--	--

参加費 団体 1口 3000円、個人 1口 1000円 郵便振替 ヒバク反対キャンペーン 00950-4-4840
振り込み用紙に、喜友名正さんの労災認定を支援する会参加費と明記してください。

キ リ ト リ

喜友名正さんの労災認定を支援する会に加わります。

	名称 または 氏名	連絡先
団体		
個人		

喜友名正さんの労災認定を支援する会の趣意・規約（案）

1. 名称、代表

会の名称を「喜友名正さんの労災認定を支援する会」とし、共同代表をおく。

2. 目的

各地の原発で被曝労働し、悪性リンパ腫で死亡した喜友名正さんの悪性リンパ腫労災認定を求めて、労災申請の当事者と協議しながら、政府交渉、全国署名等の支援活動を行う

3. ニュース等の発行

随時ニュースを発行する

4. 責任団体

責任団体をおく。責任団体は、労災申請の当事者と協議し、会の趣意に即して、支援の取り組みを論議・具体化し、会員に提起する。

5. 事務局・連絡先

事務局・連絡先をおく。

6. 参加費その他

参加費により、旅費、通信費、広報費等をまかなう。

細則

1. 渡辺美紀子（原子力資料情報室）、建部暹（ヒバク反対キャンペーン）を共同代表とする。

2. 反原子力茨城共同行動、原発はごめんだヒロシマ市民の会、双葉地方原発反対同盟、原子力資料情報室、ヒバク反対キャンペーン、関西労働者安全センターを責任団体とする。（9月5日現在）

3. 原子力資料情報室、ヒバク反対キャンペーンを事務局・連絡先とする。

4. 支援する会への参加費は、個人1口1000円、団体1口3000円とする。

振り込みについては基本として事務局団体の口座を利用する。

参考資料 1 経過の概略

1997年9月から2004年1月までの6年4ヶ月間、泊、伊方、高浜、大飯、敦賀、美浜、玄海などの原発、六ヶ所再処理施設などで、定期検の現場で放射能漏れ等の非破壊検査に従事。

累積被曝線量99.76ミリシーベルト。

この喜友名さんの被曝線量は、当時（統計資料のある2001年度以降の3年間で）の労働者約88000人中の最も被曝線量の高い労働者100人の中に入る高いもの。

2004年1月、体調不良で退職。県立病院入院。2004年5月琉球大学付属病院で悪性リンパ腫と診断。2005年3月死亡。

遺族が2005年10月28日大阪の淀川労基署に労災申請。2006年9月4日、不支給の決定。

代理人への説明：悪性リンパ腫は、労働省基発第810号「電磁放射線に係る疾病の業務上外の認定基準において」に対象疾病として掲げられていないので、対象外と判断した。

代理人（金高弁護士）を通じて2006年10月23日大阪労基局の労働者災害補償保険審査官あてに不服申し立て（審査請求手続き）

原子力資料情報室に連絡有り。

2007年6月8日の5者による政府交渉とその後の要請の結果、6月20日、厚生労働省から「大阪と連絡をとったところ、ご指摘の通りでした。要請の通り、りん何に戻し、再検討をいたします。」との回答が出た。

（りん何：資料を添えて上級機関に判断を求めること）

（5者：反原子力茨城共同行動、原発はごめんだ！ヒロシマ市民の会、双葉地方原発反対同盟、原子力資料情報室、ヒバク反対キャンペーン）

6月下旬、淀川労基署りん何の準備開始。審査官による審査は一時中断。

2007年8月22日、淀川労基署から労基局へりん何（本省受理日は不明）

2007年8月27日、労働現場の環境調査を行いりん何に添付することの申し入れに対して、労基署は本省の指示がない限り調査しない方針であると答え、現在まで厚生労働省は具体的な見解を示していない。

原発被曝労働者 喜友名正さんの労災認定（悪性リンパ腫）を 支援しよう

ウラン採掘、原発・再処理等は過酷な被曝労働、多数の被曝労働者を必要としその犠牲の上に成り立っています。日本の原発被曝労働者の労災補償例は極めて少なく、被害は放置されたままです。

喜友名正さんは、泊、伊方、美浜、高浜、大飯、敦賀、玄海などの原発、六ヶ所再処理施設などの定期検査の現場で、非破壊検査技術者として、1997年9月から2004年1月までの6年4ヶ月間で99.76ミリシーベルト被曝しました。体調悪化による退職後、血液のガン的一种である悪性リンパ腫に襲われ、2005年5月に亡くなりました。

喜友名さんは、当時の日本で最も被曝線量の高い労働者100人の内に入るといふ、極めて過酷な被曝労働によって命を奪われました。しかし、遺族による労災申請は、悪性リンパ腫は例にないとして昨年9月に却下されました。現在不服申し立てによる審査中ですが、今年6月、運動の力によって、「りん伺（資料を添えて本省に判断を仰ぐこと）に戻し、再検討する」ことを厚生労働省に認めさせ、淀川労基署が下した不支給決定を取り消させ労災認定させるための大きな一歩を踏み出すことができました。

これまで氷山の一角として労災認定されたのは2004年の長尾さんの多発性骨髄腫を除けば、いずれも白血病のみです。喜友名さんの悪性リンパ腫の労災認定を勝ち取ることは、多発性骨髄腫の労災認定と併せて、日本の狭い労災認定の窓口をこじ開け、全国の原発被曝労働者の補償を前進させます。

2003年のヒバクを許さない集いPart4では、長尾さんの労災認定を求める課題について議論し、政府に認定を迫る運動を拡大しその一翼を担うことが出来ました。私たちは、全国の多くの方々に喜友名さんの労災勝利への支援を要請します。そしてみんなの力で、喜友名さんの労災を勝ち取りましょう。

2007年8月5日

被曝62周年原水爆禁止世界大会 ヒバクを許さない集いPart8 参加者一同

(注) アピールが採択された時点ではお名前のところはKさんとなっていました。
その後、名前を明かして支援を訴えたいと当事者からの表明がありました。